

自民党 稲田前防衛相の閉会中審査出席を拒否！ 「稲田氏の辞任は最悪の隠蔽工作」！

自民党の竹下氏と民進党の山井氏の国会対策委員長会談が31日に行われました。自民党は、PKO部隊の日報問題をめぐる衆議院安全保障委員会の閉会中審査は、来月3日にも行われる内閣改造のあとに開くべきだとしたうえで、野党が求める稲田前防衛大臣の出席には応じられないという考えを伝えました。

これに対して、民進党は、PKO部隊の日報問題で特別防衛監察の結果が公表されたことを受けて、来月3日にも行われる内閣改造の前に、稲田前防衛大臣も出席して、衆議院安全保障委員会の閉会中審査を開くよう重ねて求めました。

これに対し、自民党の竹下国会対策委員長は「内閣改造で新たな大臣が決まってから審議を行うべきだ」として、来週以降に開くべきだとしたうえで、稲田前大臣の出席には応じられないという考えを伝えました。

このあと、竹下氏は記者団に対し「稲田氏は辞任という、いちばん重い責任の取り方をしており、辞任した大臣を国会に呼び出すことは、やってはいけない」と述べました。

一方、山井氏は「稲田氏は『日報隠蔽問題』の最大の責任者で、度重なる虚偽答弁が疑われている。稲田氏をいったん『国会に出す方向で検討する』と言いながら、今になって出さないのは国民に対する疑惑隠し、『稲田隠し』以外のなにものでもない」と述べました。

共産党の小池晃書記局長は同日の国会内での記者会見で、稲田朋美前防衛相の閉会中審査への出席を自民党が拒否していることについて、「とんでもないことだ。結局、稲田氏の辞任は最悪の隠蔽工作だったと言わざるをえない」と厳しく批判しました。

憲法講座 杉原講演「立憲主義の本質が分かった」と大好評！

29日に開催された憲法講座では、山下芳生日本共産党副委員長・参院議員の国会報告と、杉原泰雄一橋大学名誉教授が「立憲主義・軍事立憲主義と強権政治の進行」とのテーマで講演が行われました。山下氏の報告には「力強い報告は、これからの運動の方向性を示してくれた」等と好評でした。そして、杉原氏の講演にも次のような感想が寄せられ、好評でした。参加者は憲法の素晴らしさを確信し、これからの運動の方向性にも展望を持つことのできた講座となりました。お二人の国会報告と講演内容は、「憲法運動」9月号に掲載されます。是非、ご購入ください。



写真は田中章史氏撮影

◆杉原氏の講演に対する感想(前号に続く)

自治労連・Kさん

今日のお話を聞いて、あらためて自分自身の憲法の捉え方、社会の捉え方といったものを問い直し、実践しなければと思いました。勉強したいと思います。杉原先生のお話は、目指すべき未来は何なのか、ハッキリとしたビジョン、展望や希望のある話で、この2~3年私がきいた話の中でも、

一番若々しさを感じました。杉原先生よりも大半の人は年下。もっと若々しくしなければいけないと思いました。

八王子市・Kさん

今日は、杉原泰雄先生のお話を伺えたことがとても良かったです。原理論のお話をわかりやすくお話して下さったので、よく理解できました。今後、杉原先生のご専門である国民主権論なども関心を持って御著書を読んでみようと思います。

相模原市・Sさん

杉原先生、本日はありがとうございます。立憲主義の本質がわかりました。私が卒業の時に「ルソー」の卒論に取り組みましたが、社会契約論等、何もわかっていなかったと思います。でも、今この場所で学ばせてもらい、嬉しい時間でした。先生の「実践読本」もう一度読み直し、仲間と共に学び実践していきたいです。

以下、杉原先生のレジメです。

立憲主義・軍事立憲主義と強権政治の進行

杉原泰雄 一橋大学名誉教授

I 近代以降の政治の特色—— 立憲主義

1. 近代の前夜（身分制的封建体制の末期）におけるその正当化論

権力担当者の「本性」論——「権力の濫用」も「公理」

モンテスキュー ルソー ヴァルレ ジェファーソン

2. 近代における2つの立憲主義体制

(1)近代立憲主義型の主権主義（米・仏、A型） 下からの近代化」（近代市民革命による近代化）

① 人民主権、国民主権（People, Nation）

不可侵の「人権」の保障

② 授權規範・制限規範としての憲法による政治

主権者と「人権」のための『権限』による政治

(2)外見的立憲主義型の立憲主義（独・日、B型）

「上からの近代化」（近代市民革命によらない近代化）

① 君主主権（君主が国家統治権の権利主体） 臣民の権利（人権の保障なし）

② 例外的な禁止規範・制限規範

主権者（君主）は憲法で禁止されていない事項はすべてできる

〃 〃 は憲法で制限されていない方法はすべてできる

3. 憲法の基本用語の概念・憲法原理との相対性

① 臣民の権利（自由）と人間の権利（自由）

② 明治憲法の天皇と日本国憲法の天皇

II 軍事立憲主義

その歴史的社会的諸条件の変化に対応する転換

1. 「軍事立憲主義」のはじまり —— 国内最大の武力の統制の不可欠性

(1)アメリカ・フランスから始まる

(2)外見的立憲主義の国も

2. 軍事立憲主義体制の展開

(1)軍事立憲主義の内容の展開

(2)軍と戦争の悪用の拡大

3. 現代・現在における軍事立憲主義の転換の動向

(1)戦争の手段性喪失

①第2次世界大戦、②国連軍縮会議、③米ソ冷戦

(2) 軍事支出と生活・経済・財政の破綻



各地のとくくみ

兵庫 49の地域代表が参加して、「安倍壊憲」阻止のための交流会議開催！

兵庫県下 49 地域 63 人が参加して、「安倍壊憲」阻止のための交流会議が 7 月 29 日、高教組会館で開催されました。

開会挨拶と運動提起は、津川知久兵庫県法共同センター代表が行い「安倍改憲策動をめぐる情勢とたたかひの展望」として①「政権炎上の危機に慌てている“一強組”」に対し新しく拮据してきた私たちの力に確信をもとうと強調、②急落する支持率でも、あくまで改憲にこだわる安倍政権の動きの危険性を指摘、③だからこそ地域からかつてない共同で「国会発議阻止」の大運動を直ちに取り組み、そのスタートとなる交流会議にしようと呼びました。

和田進憲法会議代表幹事・神大名誉教授は、①5・3 安倍改憲提言の狙いと背景、②安倍軍事大国化構想の全体像、③「日本会議」等の右翼イデオログの動き、④「自衛隊加憲」の狙いと問題点、を詳しいデータで説明しました。和田教授は、安倍首相の「壊憲」決意について「これは加計学園問題や不祥事などで支持率が急落する中、憲法改正を掲げる事で、保守勢力の奮起を促している」との 5/24 産経主催講演会結果を伝える記事も引用し、市民と野党による共闘のバージョンアップも必要と指摘しました。それは安倍政権に代わる「福祉と憲法実現の野党連合政権」へ向けた圧倒的な市民参加だと結びました。

「憲法を活かす 1 万人意見広告運動・兵庫」に取り組む！

特別報告として北島隆兵庫労連事務局長は、「憲法を活かす 1 万人意見広告運動・兵庫」の取り組み方について説明、この運動は単に意見広告に応じるといふものでなく、日頃行動出来ない方々も紙上デモに公然と参加することになり、発表はあくまで「自治体ごと」の主旨を説明し、「いわば国民投票になった時のリハーサル的な意味であることも伝えて欲しい」と述べ、「各行政区で過半数世論形成の活動と結び付けよう」と強調しました。

地域・団体からの発言は、『丹波革新懇』、『北区戦争なくす会』、『県高教組』、『尼崎革新懇』、『戦争させない長田区の会』、『灘区革新懇』、『西区憲法共同センター』、『西宮芦屋の野党共闘』から、創意有る幅広い運動の様子が紹介されました。

兵庫革新懇宮田静則事務局長は、必要なのは各行政区で人口・有権者数の過半数の獲得を目標にすることを強調。必要なのは“担い手”を徹底的に広げる事がポイント。間もなく出される総がかり行動の新署名、11/3 意見広告運動は、大きく広げるチャンスにしよう。衆議院選挙は必ず有る。野党共闘+市民運動をつくりあげねばならない。この実現のために様々な要求運動を土台として下からの共闘をつくっていこう、とまとめました。（週刊兵庫憲法共同ニュース 621 号より）

愛知 【開催情報】「サマーセミナー2017」（愛知憲法会議メール・ニュース Vol. 79 より）

愛知憲法会議では、今夏もサマーセミナーを開催します。お早めにお申し込みください。

日時：8月11日（金・祝）～8月12日（土）

会場：ペンションあかとんぼ（新城市、JR飯田線三河川合駅下車徒歩5分）

学習会Ⅰ：「激動の世界を読む—国際政治のこれまでとこれから—」

講師：定形 衛さん（名古屋大学教授・国際政治史）

学習会Ⅱ：「施行70年の憲法状況を読む—日本国憲法のこれまでとこれから—」

講師：本 秀紀さん（名古屋大学教授・憲法）

参加費：10,000円（1泊4食付、交通費は別途実費）

※一日のみの参加の方は、実費のみ（交通費+食事代等）

申込み・問合せ先：kenpou@poem.ocn.ne.jp

主催：愛知憲法会議 <https://www.facebook.com/aichikenpoukaigi>